

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300641		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームすごう		
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字葛野字新岡元56-1		
自己評価作成日	令和2年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和2年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・環境に恵まれ敷地も広く、安全に前庭の散歩を楽しむことができる。 ・母屋に和室を設けており、居室と自由に行き来でき、自宅にいるような雰囲気を味わえる。 行事を行うこともできる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を十分理解し、独自の理念のもと、利用者を地域の中で自分らしく生き生きと積極的に地域住民と馴染み関係ができるように支援している。毎日のミーティングや全体会議を有効に使い、勉強会や利用者についての話し合い、事業所の運営について等、活発な話し合いが行われていて、ホームを良くするために全職員で共有している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全員で作成していて、申し送り時に日々のサービスに反映されているか確認している。	「私たちは利用者の皆様に真心を持って接し、地域の一員として生きがいのある安全で穏やかな生活を遅れるように支援します」の理念を掲げ、利用者が地域の中で自分らしく生き生きと積極的に地域住民と馴染み関係ができるように支援している。朝の申し送りで確認するほか、共有部分のホールや事務室等に掲示し、全職員がいつも念頭に置いて業務に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。夏祭りや敬老会等、ホームの行事を通して交流を図っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で行事はホーム内のみで行っているため交流はできていない。	町内会に加入するほか、夏祭りや敬老会等、ホーム行事へ地域住民に参加していただいている。また、地域の防災訓練への参加や、ホームの避難訓練に地域住民が参加していただく等の交流ができています。今年度は、新型コロナウイルスの影響で交流ができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉避難所として指定されている。ベッドや非常食を準備しており、災害時の受け入れ態勢ができています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームからの情報や報告等に対して意見をいただいているほか、自己評価と外部評価の結果を報告している。今年度は、新型コロナウイルス感染防止により会議が開催できないため、郵送にて資料を送付して報告している。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が毎回参加している。日頃から相談したり情報交換ができる関係となっている。今年度は、役場の指導により書面で運営推進会議を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、町の職員と地域包括支援センター職員に参加していただいて、ホームの実情等を報告している。今年度は、郵送にて会議資料を送付して報告している。その他、電話での連絡を行い、情報共有をしている。	役場には、自己評価と外部評価の結果、目標達成計画を提出して報告している。また、日々の取り組みを伝えるために広報誌を配付して、理解していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やホーム内の勉強会のほか、身体拘束廃止に関する指針を掲げて、職員全員が理解して拘束しないケアに取り組んでいる。	全職員で身体拘束を行わないという共通理解となっている。また、研修等で身体拘束の内容や弊害について理解を深めて実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等に説明して、同意を得ることになっていて、書式を準備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して、虐待に対する理解を深めている。また、職員がお互いに気がついたことを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地元の社会福祉協議会の協力を得て、内部研修を行い、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ホームの方針や対応等を詳しく説明している。利用料の改正等は、その都度説明をして同意をいただいている。契約解約時には、利用者が不安にならないように配慮して説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族が、意見や要望を言えることを説明して、面会時に遠慮なく何でも話せる雰囲気になるように努めている。	利用者には、日々寄り添うことで些細なことでも話せる関係ができています。ホーム内外の相談苦情窓口をホーム内に掲示したり、重要事項に明記して説明している。出された意見や要望については、話し合って改善する等、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議で職員から出された意見を運営に反映している。	日頃から意見や提案を出しやすいように職員とのコミュニケーションを大切にしている。意見や提案があった際は、すぐにその場で話し合いを行っている。反映できないことは、責任者と代表者に繋げて業務改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は、労働基準法に基づく就業規則により遵守している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成して、個々の経験に応じた研修を受講している。伝達研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と2ヶ月に1回、意見交換会を行っている。お互いのホームを訪問する等、交流を図っている。今年度は、電話でコロナ対策についての情報交換等を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談では、利用者の心身の状態や思い、ニーズを理解して受け止め、安心感を得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関する相談があったときは、家族と本人から希望とニーズを伺い、ホームの対応について話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要であるかを見極め、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合い、ひとつの家族のように接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を通して利用者の思いを共有して、共に支えていく関係を築いている。今は面会を制限しているため、電話やメール、通信等で近況を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの友人との関係をできる限り継続できるように支援している。今年度は、面会を制限しているため電話や手紙等で近況をお知らせしている。	入所時のアセスメントで把握した馴染みの場所や、これまで関わってきた人との関係が継続できるように外出等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者が孤立することがないように利用者同士の関係性を把握している。日々の生活を通して、お互いが支え合っているように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る場合は、これまでの生活状況等、情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で、利用者の行動等から本人の思いをできるだけ把握している。	アセスメントや家族、関係者等からの情報を参考にして、利用者との会話や表情から本人の思いや希望を把握している。意思表示ができない利用者には、利用者の視点に立って全職員で話し合いをして検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴や個性等の情報を把握して、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で個々の生活リズムを把握して、体調の変化に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、全員でカンファレンスを行って作成している。また、利用者の思いのみならず、家族の意向も反映するように努めている。	介護計画作成時は、アセスメントはもちろん、利用者の関係者から情報収集を行い、利用者の希望と家族の希望を確認して作成している。見直しのときは、評価とモニタリングを行い、職員間で十分な話し合いをして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画は、日常の様子や利用者の言葉等を記録して、職員間で情報共有をして作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や外出支援等は、利用者のニーズに柔軟に対応して実施している。今年度は、医療機関とはFAXでの診察や代理受診等に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やホームの行事、災害時の対応として、民生委員や町内会、消防署等へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続して受診できる環境となっている。受診はスタッフが同行して、結果等は家族に報告している。	今までのかかりつけ医を継続して受診できるように支援している。受診には職員が同行しているが、家族にお願いしている場合もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が健康管理を行っている。また、夜間における緊急時の対応方法を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、早期退院に向けて関係者と話し合いをしている。入院中は、状況を確認しながら職員ができるだけ面会するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針として、ターミナルケアは実施していないことを入所契約時に説明している。	重度化、終末期に対応していないことを入所時に説明している。具体的に、食事が食べられなくなった、入浴できなくなったとき等を家族に相談する目安としている。また、入所時に緊急時の救急車の手配や搬送先の病院を確認している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救急救命の研修を受講している。また、緊急時マニュアルに従って対応できるように、日々確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署に連絡を行ったうえで、年2回消防訓練と水害時を想定した避難訓練を実施している。今年度は、外への避難は控えてホーム内で行っている。また、災害時に備えて、3日程度の食料と飲料水を確保している。	年2回、夜間を想定した避難訓練のほか、水害時の訓練も行っている。災害時に備えて地域住民への協力体制の働きかけが行われていて、非常用の食糧や物品の準備も行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には、採用時に個人情報の守秘義務に関しての誓約書の提出を求めている。排泄の失敗時等は、さりげなく声掛けをして個室で対応している。	利用者が自分らしく生き生きと暮らしていけるように、また人生の先輩として尊敬の意をこめた声掛けを実践している。個人情報に関する研修を行い、プライバシーに配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状況に合わせて、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れが決まっているとき以外は、できるだけ本人の希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりを大切に、実現できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手な食べ物や食べられない物は、メニューを変更する等して、食事を楽しんでもらえるように工夫している。	利用者の苦手な食材を代替食で対応している。食べたい食材については、利用者の状態に合わせて、柔軟な対応をしている。食事の際は、職員が同席して食事のサポートや会話を楽しみながら、楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成している。摂取カロリー、水分量は記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて義歯の洗浄、消毒、管理等の対応をしているほか、食後のうがいを促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。失敗時は、プライバシーに配慮して居室で着替えをしていただいている。	一人ひとりの排泄パターンを記録して把握している。事前誘導や随時誘導により失敗が減ってきている。職員は対応を随時話し合い、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や軽い運動を促しているほか、必要に応じて下剤を使用する等、一人ひとりに応じた対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴する曜日は決められているが、一人ひとりの入浴習慣を把握して、楽しんで入浴できるように支援している。	入浴の曜日は決められているが、一人ひとりの入浴習慣を把握して楽しんで入浴できるように支援している。入浴順番にこだわる利用者がいるので、順番に一番風呂に入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体を動かしていただき、良眠できるように努めている。主治医より眠剤が処方されている利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後、利用者へ手渡した後、服薬したかどうかを職員が確認している。処方内容変更時は、申し送り時に情報共有して、症状の変化に留意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野ごとに役割を担っていただいている。趣味を楽しめるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期は前庭の散歩を日課にしているほか、ときにはドライブに出かけ、気分転換を図っている。今年は降車しないでドライブに出かけている。	季節的であるが前庭の散歩が日課となっている。また、ドライブに出かけ気分転換を図っている。今年度のドライブ時は、降車してないで風景を楽しんでいただいている。買い物は、職員が代行したり、通院時に病院内の売店で買い物をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機でジュース等を購入できるように、少しのお金を所持していただいている。預り金は、会計担当者が一人ひとりの出納帳に記入して、定期的に家族に内容を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、番号を押す支援を行っている。手紙を出したい方には、切手を貼り投函する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的な雰囲気が感じられるように心掛けて、飾り付けはシンプルにしている。	温度、湿度は定期的にチェックして管理している。共有部分や廊下には、行事の写真や季節感のある展示物、飾り付け等を工夫して展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や外の景色が見えるように廊下の途中にソファを置く等、静かに過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込む方、シンプルが好みの方等、それぞれの好みに合わせた居室作りを行っている。	馴染みの物が持ち込まれて、それぞれの利用者にあった居室となっている。ベッド等の家具の配置は利用者に合わせて配置され、利用者にとって安心して過ごしやすい空間となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ目印を付け、混乱しないようにしている。		